

# 「いのち」輝くまちに

## 「ともに生きる高齢社会」に

人はだれでも老いていくものです。人生の最後まで個人として尊重され、その人らしく暮らしていくことはだれでも望んでいることです。さらに、すべての人が個性や経験を生かし、尊厳をもって生きることができる社会をつくるために、高齢者に対する偏見を無くし、高齢者の自己選択権を尊重することが大切です。

医学の進歩や食生活の向上によって、私たちは大変長生きできるようになり、平均寿命が著しく伸び、人口の中で高齢者の占める割合も高くなりました。このような社会を高齢社会といいます。ちなみに日本の平均寿命は女性 84.93 歳、男性 78.07 歳(2001 年)で 1983 年に北欧のスウェーデンを抜いて世界一となって以来、わが国の平均寿命は世界水準に達しています。

高齢社会の中で、高齢者を邪魔者扱いしたり、高齢者の気持ちをきずつける言葉を使ったりすることはもちろん、高齢者であるという理由だけで、ある種の活動ができないと決めつけることは高齢者を尊重しているとはいえませんし、これもある種の虐待といえます。

高齢者の人権が尊重される社会を確立するためには、人を年齢で決めつけることなく、一人一人の多様性を認め合い、すべての人が年齢にかかわらず、社会を構成する一員として尊ばれ、高齢者自らの意志に基づいて、何事にも自由に参加できることがあたりまえの社会を築くことが必要です。

平均寿命が延びた現在、高齢期を「余生」や「老後」といった消極的な捉えかたをするのではなく、生きがいを持って社会の一員として積極的に活動する生き生きとした暮らしづくりが必要となってきます。高齢者の豊かな経験や知識が尊重され活用される環境づくりをすすめることが大切です。朝来市では、各方面で活躍されている高齢者の方も沢山おられます。このように、高齢者の方も、社会を構成する重要な一員であることを認識し、積極的な社会参加を個性に応じてすすめていくことが大切です。

このコーナーは、人権文化のあふれるまちづくりのため、「いのち」輝くまちづくりのため、市民の皆さんに問題提起や資料提供をします。

ご愛読いただき、ご家庭や街角の話題にしていただければ幸いです。

◆ 人権推進共同参画課 TEL 672 - 6122

### 名誉市民の木彫家 日下寛治氏 逝去



和田山町林垣出身で朝来市名誉市民の日下寛治氏(東京都)が2月28日、お亡くなりになりました。88歳でした。

日本美術家連盟会員の日下氏は、木彫家として、昭和8年に日展に初入選。その後、文展、日展、日展賞、日展賞、奨励賞等数多くの賞を受賞され、昭和51年には和田山町功労者表彰(文化功労)を受賞されました。市内には「友愛」(寺谷橋左岸)のほか多数の作品を提供いただき、社会及び文化の興隆に寄与された功績により、平成17年3月5日、和田山町名誉市民とされました。有名な作品では、赤穂の47士の作品のうち、1体が日下さんの手によるものです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 但馬年代別水泳競技大会10回出場表彰

水田眞一さん(和田山スイミングクラブ)  
平田雅也さん(和田山スイミングクラブ)

3月5日(日)、養父市よつか温水プールで、但馬年代別水泳競技大会が開催され、この大会において、過去10回出場し、顕著な成績を修められた朝来市から出場の、水田眞一さん(和田山町筒江)と平田雅也さん(和田山町平野)が但馬水泳協会から表彰を受けられました。

また、この大会に朝来市から出場した、和田山スイミングクラブ、エスポワスイミングスクール、生野かつばつば俱樂部の各選手、個人参加の柏合逸郎さん(生野町口銀谷)ともに優秀な成績をおさめられました。



10回出場表彰を受けられた  
水田さん(左)・平田さん(右)